

特別支援と教育現場

東京都スクールカウンセラー（臨床心理士） 金屋光彦

1 教育現場で最も避けたいこと

学習や生活の面で特別な支援を必要とする児童生徒が、6.5%（文科省、2012）の割合で通常学級に在籍することは、前回指摘しました。その中で、教育現場の者が最も気をつけるべきことは、対応を間違えた結果、いじめや不登校を生じさせ、取り返しのない破綻を招くことです。いじめ自殺は、その最悪の結果と言えるでしょう。

普通のことができず、不可解な行動からトラブルも多いアスペルガー症候群の生徒に対し、ある教師が「いじめられるようなことを本人がしている、自業自得だ!」と立腹しながら指導していました。いじめを生むような行為は本人の障害による表出行動であり、本人自身もコントロールできずに苦しんでいる所です。そこに強い指導を入れても効果はないでしょう。それどころか、自尊感情を傷つける、先生の忌み嫌う態度がかえって周囲の生徒のいじめを誘発する等、さまざまな弊害を招いてしまい、逆効果になりがちです。

いじめや不登校を生じさせないよう配慮し、かつ本人も周囲もその障害を乗り越えて成長できるように促すところに特別支援があり、先生の腕の見せ所でもあると言えるでしょう。スクールカウンセラーは、臨床心理という側面からこの特別支援がうまくいくよう黒子として援助していくのです。

私の勤務高校でも、ある時期広汎性発達障害を持つ生徒に対して、いじめ現象が生じていました。本人も「もう限界、しんどくて学校休みたい」と自信を失い、教室へも入れなくなっていました。そこで、担任教師と連携し、最も攻撃的ストロークを浴びせていた生徒数人と面接を実施したのです。その一人S君の話の聴いてみると、彼自身も強いストレスを家庭環境等から受け、不安定な心理状態を抱えていることが明らかになりました。

S君との面接を続ける中で、ストレスとの付き合い方の技術を伝え、ストレス軽減の環境調整等を進めると同時に、発達障害を持つ彼への理解と適切な対応を依頼しました。それを、S君は快く受け容れてくれました。その後、二人の関係は改善され、逆に何かあると彼をかばってくれる最大のサポーターになっていったのでした。

特別支援は、学校全体で行うべきものです。私の勤務高校は幸い意識が高く、「ケースから学ぶアスペルガー症候群に関する理解と対応」のテーマで教員研修を実施できた結果、当該生徒への指導場面でストレスを感じる事がなくなったと語る先生が増える一方、積極的に面倒を見られる先生も出てくるようにもなりました。

2 自尊感情の傷つき

米国俳優のトム・クルーズ氏が読字障害を持ち、高校時代特別支援を受けていたのは有名な話です。この学習障害を併発するアスペルガー症候群の子どもたちの中には、板書された内容を見ながら同時にノートに書く、いわゆる供応運動が苦手な生徒も多く、何度指導しても上達せず、いらいらした教師は、「なぜできないんだ」とさらに強く指導しがちです。大声や怒鳴り声による教師の注意は、騒々しいだけで多大な苦痛を感じる過敏な彼らには、もはや理解不能です。このような通常の強い指導は彼らの心を傷つける一方、熱心な先生程消耗してしまうという悪循環に陥りがちです。

この子どもの自尊感情の傷つきは、いろいろな二次障害を生みます。不登校やいじめをはじめ、特にADHDの子にも生じる反抗挑戦性障害や行為障害等が問題になります。

また、自閉系の子どもたちにはうつ傾向を招きがちです。私が関わったアスペルガー症候群の中学生T君は、小学校時代のいじめや担任の強い指導の繰り返しから、入学当初「どうせぼくなんか」が口癖で、自己評価が著しく低下したうつ状態を示していました。

スクールカウンセラーは、そういった事態にならないよう彼らへの理解を促し、「問題の外在化」等さまざまな臨床心理的対処方法を提案しながら、支援を進めていくのです。

3 大切なこと

心理臨床家が参考にするDSM-IV（精神疾患の分類と診断の手引き）が19年ぶりに改訂され、改訂版のDSM-5ではアスペルガー症候群の表記がなくなり、上位カテゴリーの広汎性発達障害も自閉症スペクトラム障害という名称に統一されました。

心理支援者にとって大切なことは、その子の実態を正しく理解し、生きるのを助けることです。手引きはあくまで参考にとどめ、現場での彼らの在りようを取り巻く環境全体をよーく観察し、心理検査も活用しながら、適切なアセスメントを通して精度の高い見立てをたて、一人ひとりに沿った支援を実行することと言えるでしょう。

アスペルガーの子どもたちも、みなそれぞれです。彼らそれぞれが持つ生きづらさに共感しつつ、それらが自分らしさに変容できるよう援助する。また、それぞれの得手強みを職業レベルまで培い、やがて彼らが社会で働く喜びを共にシェアできる日が来れば、スクールカウンセラーとしてもこの上ない喜びと言えるでしょう。